

とくしまは元気な集落の宝庫！



とくしまの
モデル集落
BOOK

とくしまのモデル集落BOOK

令和4年度版

● 編集・発行 ●

政策創造部 地方創生局とくしまぐらし応援課 地域再生担当
〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
TEL:088-621-2745 FAX:088-621-2829

とくしまの元気な集落を集めました！



とくしまの
モデル集落
BOOK

地域の元気は徳島の元気！

とくしま集落再生表彰・アクティブシニア集落

徳島県

持続可能で安心・安全な 集落を目指して 徳島県の未来へとつなぎます。

とくしま集落再生表彰

徳島県では、地域資源を活かした創意工夫ある活動に
取り組み、地域の活性化に顕著な功績のある個人又は団
体を表彰することにより、優れた取組事例を幅広く普及
し、集落再生の実現を図ることを目的として「とくしま集
落再生表彰」を実施しています。

平成25年度より実施しているこの表彰を受賞された、
22団体・個人の現在の活動を紹介します。

徳島ならではの地方創生モデルとなる先導的な取組み
をご覧ください。

CONTENTS

令和4年度	(最優秀賞) 特定非営利活動法人 郷の元気 …… 01
	(優秀賞) 日和佐 発心の会 …… 02
	(優秀賞) 道の駅ひなの里 かつら再生プロジェクト …… 03
令和3年度	(最優秀賞) KITO DESIGN HOLDINGS株式会社 …… 04
	(優秀賞) 家賃再生プロジェクト …… 05
	(優秀賞) ほのぼの工房 …… 06
令和2年度	(最優秀賞) 特例非営利活動法人 ひとつむぎ …… 07
	(優秀賞) 株式会社MIMAチャレンジ …… 08
令和元年度	(最優秀賞) 日和佐太鼓創作会 …… 09
	(優秀賞) 特定非営利活動法人 あったかいよう …… 10
	(優秀賞) 加羅宇多姫伝説保存会 …… 11
平成30年度	(最優秀賞) 山人の里運営委員会 …… 12
	(優秀賞) きさわ杉の娘楽校 …… 20
平成29年度	(最優秀賞) JA美馬女性部主婦営農班(かあちゃん野菜) …… 13
	(優秀賞) 勝瑞獅子保存会 …… 14
	(優秀賞) 久敷あじさいクラブ …… 15
平成28年度	(最優秀賞) 特定非営利活動法人 阿波勝浦井戸端塾 …… 16
平成27年度	(最優秀賞) 株式会社リレイション …… 17
平成26年度	(最優秀賞) うだつマルシェ実行委員会 …… 18
	(優秀賞) 故 高開文雄氏 …… 20
平成25年度	(最優秀賞) もんてこい丹生谷運営委員会 …… 21
	(優秀賞) 丹生谷清流座 …… 19



「持続可能な地域社会」を 先導するシニアの方々の 活躍をご覧ください。

アクティブシニア集落認定

徳島県では、高齢化が著しく進む過疎地域等において、
高齢者が地域の多様な活動へ積極的・主体的に参画し、
地域活性化に貢献している集落をモデル事例として認
定し、他の地域に広げていくことを目的として「アクティ
ブシニア集落」認定制度を実施しております。

令和2年度より実施しているこの認定制度により「アク
ティブシニア集落」として認定された、県内8集落の活動
を紹介します。

CONTENTS

令和4年度認定	野村集落(美馬市) …… 22
	木頭集落(那賀町) …… 23
	家賃集落(つるぎ町) …… 24
令和3年度認定	木岐奥集落(美波町) …… 25
	久尾集落(海陽町) …… 26
令和2年度認定	生名集落(勝浦町) …… 27
	久敷集落(つるぎ町) …… 28
	ハタ・法市集落(東みよし町) …… 29



関係者と早乙女姿で田植え体験をした皆さん

令和4年度 とくしま集落再生表彰



特定非営利活動法人 郷(さと)の元気

「郷の元気」を守り育てながら、 持続可能なまちづくりを推進

上勝町を拠点として「農山漁村」の中間支援を目的に設立。日本の棚田
百選に選ばれている「椋原の棚田」保全のために、年間を通して農作業が
体験できる「棚田オーナー制」を平成17年に創設し、これまで約9,000人
の棚田オーナーによる農作業労働を含む交流人口を獲得している。

また、これまで各棚田地域での個別活動だった棚田保全活動に対して、
各リーダーから構成される活動組織の誕生をサポートした。そのほか、地
域おこし協力隊の受入れをはじめ、県内大学や行政の人材研修も受入れ、
棚田における課題解決だけでなく、他地域も巻き込んだ人材育成・情報交
流は持続可能な地域づくりの一助にもなっている。コロナ禍においては、
Zoomやメタバースを用いたオンライン&リアル交流を展開することによ
り、新たな交流の場を創出した。棚田の保全及び交流活動を継続的に実施
して上勝町の棚田ブランドの構築や、集落連携を目的とした組織創設支援
など持続可能な地域づくりに寄与している。

特定非営利活動法人 郷の元気

- 住所/〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北30番地
- 代表理事/澤田 俊明 ●連絡先/0885-46-0676
- メール/ satonogenki@gmail.com
- Facebook/ <https://ja-jp.facebook.com/satonogenki/>



(写真上) 周辺地域を含んだ農村景観としての美しさに加え、四季
を通じてさまざまな風情があり、谷沿いに多く並んでいた精米のため
の水車小屋が集落住民の努力で復元されている。

(写真下) Zoomやメタバース「仮想空間」を用いたオンライン&リアル
交流を展開することにより、新たな交流の場を創出。



令和4年度 とくしま集落再生表彰



日和佐 発心の会

美波町の地域住民が一体となって 地域コミュニティの活性化を進める

美波町にある四国霊場23番札所・薬王寺の門前町(桜町通り)は、かつて遍路宿や飲食店が建ち並んでいたが、過疎化や郊外店の進出で次第に店舗数が減少していった。そういった経緯から、平成27年商店主と住民有志によって結成され、美波町に住む人たちが地域の未来をより良いものにしてと主に3つの柱で活動している。1つ目は、桜町通りを訪れた人が、屋外で交流や飲食ができるよう、お店の軒下などにストリートファニチャー(ベンチやテーブル等)を設置して、地域コミュニティ活性化を図っている。2つ目は、地域限定商品の開発事業。町出身の挿絵画家のデザインを取り入れ、制作された「ウミガメマスク」やウミガメの形をしたお菓子の販売など、地域の人材や文化を巻き込んで商品開発を行っている。3つ目は、地域連携を意識したにぎわいづくり。スタンプラリー形式で桜町通りの店舗を回ってもらうイベントの他、年間を通じた様々なイベント開催や、町内の観光資源を電動バイクで巡るツアーの実施など、町内全体に活動は広がっており、地域活性化に貢献している。

日和佐 発心の会

- 住所 / 〒779-2305 徳島県海部郡美波町奥河内字寺前228番地
- 代表者 / 江本 友昭 ●連絡先 / 090-8696-5918 (代表:江本)
- メール / hossinnokai.23@gmail.com
- Facebook / <https://www.facebook.com/hossinnokai.23/>
- Instagram / https://www.instagram.com/hosshin_23/



(写真上)様々なイベントでかわいい、町のシンボルでもあるウミガメの形をした「かめっこ焼き」を販売している。

(写真下)現在休業中ではあるが、電動バイクのレンタルで美波町の魅力を感じていただけるツアーなども企画していた。



令和4年度 とくしま集落再生表彰



道の駅ひなの里かつら再生プロジェクト

思い出に残る素敵な場所を提供し、 交流人口増加で地域の活性化に貢献

勝浦町の「道の駅ひなの里かつら」において、活力ある地域づくりの拠点として地域おこし協力隊OBを道の駅統括責任者として雇用し、道の駅再生プロジェクトを立ち上げる。主な活動として、地域住民から農作放棄地問題解決の要望を受け、令和2年から道の駅が主体となり、地域との協働で耕作放棄地の再生を目指す取組み「808(ヤオハチ)農園」を開始。地元の学校や行政など多様な団体と協働で、耕作放棄地を観光農園として再生する取組みを始め、野菜等の苗の植え付けから収穫までをイベントとして実施し、交流人口を増加させることで道の駅を含めた地域の活性化に貢献している。また、地域の声に応えるために道の駅設置から10年目に着手するような施設は少ないことや、連携する人たちが楽しく活動できるよう計画しており、収益性だけでなく、話題作りと協働体制を構築するために活動している点は注目すべき点である。

道の駅ひなの里かつら再生プロジェクト

- 住所 / 〒771-4303 徳島県勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬4-1
- 代表者 / 渡邊 祐介 ●連絡先 / 0885-44-0112
- メール / hinanosato.k@gmail.com
- HP / <https://www.hinanosato.com/>
- Instagram / https://www.instagram.com/hinanosato_katsuura/



(写真上)808農園に勝浦町内の保育園に通う園児たちが招かれ、さつまいもの収穫を、泥だらけになりながらも楽しんだ。

(写真下)「こどもマルシェ&道の駅感謝祭」にて、横瀬小学校3年生から6年生の児童が自分たちでアイデアを出し合い、製作した勝浦町の恐竜や特産品みかんを用いた商品をPR販売した。



令和3年度 とくしま集落再生表彰



KITO DESIGN HOLDINGS株式会社

全ての人が笑顔になれる、 奇跡の村を創る

木頭地区を拠点として、「キャンプ場の再生」や「空き家の活用」をはじめ、特産の「木頭柚子」を使用した加工品販売など、持続可能な地方創生に取り組んでいる。平成30年にはグランピングを楽しめる「CAMP PARK KITO」をオープンし、令和2年には地元の人たちの買い物環境改善とともに、子どもたちが未来への刺激を受けられる場として「未来コンビニ」をオープン。未来コンビニは、国内外のデザイン賞11冠に輝き、「世界一美しいコンビニ」として多数のメディアに出演。地域のイメージ向上に貢献するだけでなく、店名に込められた想いに応えるべく、コンビニに訪れた人と交流できるスペースを設けたり、地元ではなじみがないキャッシュレス決済を地元の子供たちが経験できるようにしている。

「木頭をデザインする」をテーマに、「全ての人が笑顔になれる、奇跡の村を創る」をミッションとして、各事業を推進。「国内外のあらゆる人々に木頭を知って・訪れて・愛してもらい、移住促進によって人口を増やし、木頭に生まれ育つ子どもたちが地元を出た後も、いずれまた『ここに帰ってきたい』『ここで家族と暮らしたい』と思えるような場所へ」という長期的な目標に向けた取り組みは、過疎高齢化が進む地域で移住者や交流人口の増加に大きく寄与している。

● 令和4年度ふるさとづくり大賞（総務省）奨励賞（総務大臣表彰）受賞

KITO DESIGN HOLDINGS株式会社

- 本社 / 〒771-6403 徳島県那賀郡那賀町木頭和無田字イワツシ5-23
- 代表取締役 / 藤田 恭嗣 ● 連絡先 / 0884-64-8088
- メール / office@kito-dh.jp
- HP / https://kito-dh.jp/



(写真上・未来コンビニ)

各曜日で地元では手に入りにくい生鮮食品や全国の名産品などを仕入れたり、地元の人が作った箸・鞆等を販売。

(写真下・CAMP PARK KITO)

閉鎖されたキャンプ場を借受け、グランピング施設ヘリノベーション。研修棟もあり企業研修の受入れも可能で、様々なアクティビティも体験できる。



令和3年度 とくしま集落再生表彰



家賀(けか) 再生プロジェクト

この貴重な歴史ある集落を再生し、 「藍」の魅力で世界に発信する

家賀地域の伝統的な農法・文化・歴史の継承を目的に、世界農業遺産・日本農業遺産・農水省「食と農の景勝地」指定地域でもある「にし阿波傾斜地農業」を活かし、「ソラの藍」栽培を復活させる。無農薬・有機肥料(カヤと落葉)で栽培した藍を県内外の企業と連携。「食べる藍」として収穫した藍をパウダー状に加工し、様々な商品の開発、販売を行っている。さらに、傾斜地農法を含めた家賀地域や三木柵などのつぎ町や「にし阿波地域」の魅力伝える農業・観光・歴史・自然を巡るツアーの実施や視察・農業体験の受入、農福連携の取組み等で多くの団体と交流を図っている。家賀集落の藍栽培が海外で紹介されるなど、国内外での本地域の知名度向上に寄与し、関係人口の増加という点からも地域活性化に大きく貢献。

また、無農薬・有機肥料で行う農業方法は環境保全・CO2排出削減だけでなく肥料に茅(スキ)や落葉を使用することで、SDGs農業(持続可能な農業)を実現できている。取組みに興味を持った県内外の企業の農業参入の機会を支援し、数社が参入、雇用機会の増加に貢献。そのほか、家賀地域で育てた藍種・藍苗を県内外各地に提供することにより、「藍ネットワーク」を形成し、地域文化を次世代に継承する取組みを「つぎ学講座」として積極的に行っている。

家賀再生プロジェクト

- 住所 / 〒779-4107 徳島県美馬郡つぎ町貞光家賀道上474
- 代表・発起人 / 枋谷 京子 ● 連絡先 / 090-5144-4896
- HP / https://peraichi.com/landing_pages/view/keka-playback-project



関係者が令和3年度とくしま集落再生表彰を記念して現地で撮影



(写真上・傾斜地に、藍の苗の植え付け風景)昭和初期まで家賀を含む、山間部の半数の農家が藍を栽培。標高500mで気温の寒暖差が激しく、上昇気流と霧の発生により水撒きを必要としない。肥料にカヤ・落葉を何層にも敷き詰め、安心な無農薬・有機肥料であり、藍は獣害にも強い。

(写真下・食べられる「藍」の関連商品)「藍晩茶」は、藍の粉を上勝の阿波晩茶にブレンドしたもの。そうめんに練りこんだ「藍入り半田手延べそうめん」も人気を博している。「家賀の藍粉(アイコ)」は団子・ホットケーキ・チョコレート・紅茶・ドレッシング・お味噌と混ぜるなど色々な使い方があり、最近では、海外からの依頼によりアイシャドウにも使用。クラフトビールは農福連携にて「病気が治ったときに、自分達が育てた「藍」を入れたビールで家族と乾杯したい」との想いで製作。「とても美味しい」と人気の高い商品。



(左から) 榎山信子さん、川村里子さん、榎山悦子さん、後藤由美子さん

令和3年度 とくしま集落再生表彰



ほのぼの工房

山里の暮らしをまるごと味わう。 キレイのさと 美郷プロジェクト

美郷地区を拠点に、地元の主婦4名が子育てが終了したことを契機として、地域の素材と人材を生かし、「菓子工房」と「農家民宿」を立ち上げ、地域活性化に貢献している。

美郷の特産品である梅を使った「梅のし」や、地域の里山食材で作る「田舎だんご」など、地元食材を活用した商品開発を実施。懐かしい味として多くの人々から喜ばれ、販売を地元物産館のみに限定することで、美郷へ来てもらうきっかけを創出している。

また、自然食で身体の内側からキレイになることをテーマに、美郷で採れた季節の野菜や山菜、特産品の梅や玄米など、地元の食材を生かして作った「美郷流マクロビオティック料理」の研究開発などにも取り組んでいる。

農家民宿では、農村ならではの体験プログラムを提供し、季節ごとに様々な体験イベントの企画を行い、美郷地区の活性化と交流人口の増加に寄与している。

ほのぼの工房

- 住所 / 〒779-3501 徳島県吉野川市美郷字宮倉60番地2
- 代表者 / 榎山 信子 (かじやまのぶこ) ● 連絡先 / 0883-43-2708



(写真上)「田舎だんご」とは、ハレの日や仏壇にお供えするモノを指し、当時は砂糖や小豆といった甘味は高級品だったため非常に喜ばれた。美郷物産館で販売。

(写真下)マクロビオティックと呼ばれる玄米食を提供する農家民宿&レストラン「きのこの里」。従来のマクロビオティック料理に囚われず、地元でとれた食材をふんだんに用いた「美郷流マクロビオティック料理」が味わえる。
● 農家民宿&レストラン「きのこの里」
吉野川市美郷字田平199番地1 ● 連絡先 / 0883-43-2370



令和2年度 とくしま集落再生表彰



特定非営利活動法人 ひとつむぎ

”ひと”と”ひと”をつむぐことから 生まれる教育やまちづくりを目指して

牟岐町において、県内だけでなく、全国各地の大学生が主体となって団体を設立し、教育支援等の企画・運営を行っている。中学生のキャリア教育プログラムである「シラタマ活動」では、中学生に大学生が併走しながら、地域住民を巻き込んで地域課題に挑戦するという活動を行っている。また、高校がない牟岐町で、高校生が大学生と共に学べる機会を創出する「ローカルハイスクール」の展開や、県外の大学と連携した合同イベントの開催等、関係人口創出の取組み等を通じて、町の活性化に大きく貢献。行政だけでなく、地域住民との協働を通じて地域に根ざした活動を展開している。これらの活動から、牟岐町に就職する者や大学進学後、当法人に入学するなど「人材の循環」が生まれている。

法人名である「ひとつむぎ」は、「人と人とをつむぐ」そして「メンバーが牟岐で知り合い一つになった」ことを意味しており、今後も地元でない視点を生かして地域に根ざし、地域と共に歩む活動が期待されている。

特定非営利活動法人 ひとつむぎ

- 住所 / 〒771-1153 徳島県徳島市応神町吉成字有天4番地の7
- 理事長 / 越智 日和 ● 連絡先 / 090-3780-7625 (事務局: 大西)
- メール / oonishi.hiromasa.1@gmail.com
- HP / <https://hitotsumugi.org/>



(写真上)中学生対象のキャリア教育プログラム「シラタマ活動」では、中学生が大学生や地元住民の支援を得て、地域の課題をテーマに夏休みの終わりにアウトプットイベントを開催してきた。中学生は、「ナナメの関係」で接する大学生の存在により大きく成長する。

(写真下)高校がない牟岐町。高校進学後も仲間が集まる機会が欲しいとの要望を受けて始まったのが「ローカルハイスクール」。春、夏の長期休暇にあわせて開催する1泊2日の合宿型セミナーを通じて、大学生・高校生が相互に多様な学びを獲得する。



令和2年度 とくしま集落再生表彰



株式会社MIMAチャレンジ

美馬市の地方創生を進めるため、持続性の高い枠組みで推進していく

脇町うだつの町並み周辺の活性化に向け、町の景観を損なわないようにエリアマネジメントを行いながら各事業に取り組んでいる。重要伝統的建造物群保存地区において、空き家が多くなっていることに着目し、以前は酒屋・醤油味噌醸造所だった古民家を商家の雰囲気を残しつつ、内部をサテライトオフィス・コワーキングスペースに改修し、サテライトオフィス森邸をオープン。

また、同じく古民家を改修し、東京・六本木のイタリアンレストラン「ラ・ブリアンツァ」のオーナーシェフ、奥野義幸氏が監修のレストランと高級ホテル運営企業監修のホテルを開業。景観保全しつつ、歴史的文化的価値のある古民家活用に取り組む。さらには、惜しまれつつ閉店した老舗ラーメン店の事業承継に取り組み、繁盛店として復活させるなど、活動は多岐に渡る。

地元金融機関・企業や地元とのネットワークづくりを行う中間支援組織として、各事業を通じ、地域の課題であった「通過型観光から滞在型観光への転換」を図りながら、雇用創出など持続可能な地方創生事業に大きく貢献している。

株式会社MIMAチャレンジ

- 住所 / 〒779-3610 徳島県美馬市脇町大字脇町108番地
- 代表者 / 片岡 久謙 ●連絡先 / 0883-52-1577
- メール / info@mima-challenge.com
- HP / http://mima-challenge.com/



(写真上・Punta)「先端」という意味を持つ「Punta」は、うだつの町並みで、美馬市で徳島県で一番愛される最先端のイタリアンレストランを目指して令和2年5月10日にオープン。

(写真下・二代目天竜) 地元の方から復活の強い要望のあったラーメン店「天竜」。都市部から移住者を募り1名を選定し、ラーメン天竜のオーナーから直々に手ほどきを受け、令和2年6月30日に2代目として復活。



令和元年度 とくしま集落再生表彰



日和佐太鼓創作会

演奏を通じて分け隔てなく人に関わっていけるのは、小さい町の魅力

昭和63年発足後、町内外の催しに年間を通して出演し、力強い太鼓のリズムを響かせている。毎年元旦には美波町大浜海岸において初日の出演奏を行っており、県内外から多くの人が、初日の出と太鼓演奏のコラボを楽しみに訪れている。平成3年には、姉妹都市であるオーストラリアのケアンズ市へ親善使節団として参加し、日本文化を紹介するイベント「ジャパンウィーク」にて日和佐太鼓を演奏。また平成19年・平成24年に県内で開かれた国民文化祭にも出演し、好評を得た。平成30年には結成から30周年を迎え、一緒に町を盛り上げ支えてくれた地元へ感謝の気持ちを伝えるために地元の阿波踊り連と合同記念公演を開催。

これまでに太平洋の荒波や地元の四季の情景をイメージしたオリジナル曲を作成。所属するメンバーの中にはアメリカやインドネシア出身の人も所属しており、日本の文化や歴史を伝える場にもなっている。また、小・中学校にて太鼓指導を行うことで美波町の発展と後世の育成に努めるなど地域に根ざした活動も行い、にぎわいを創出している。

日和佐太鼓創作会

- 住所 / 〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐135
- 代表者 / 外磯 千博 ●連絡先 / 0884-77-3595
- Facebook / https://www.facebook.com/people/日和佐太鼓創作会/100064831985705/



(写真上)ALT(外国語指導助手)等の外国人も参加し、海外へも日本の伝統文化継承に取り組んでいる。

(写真下)江戸時代後期の建築と推定される県内で最も古い舞台の一つである、拜宮農村舞台における公演。



令和元年度 とくしま集落再生表彰



特定非営利活動法人 あったかいよう

よりよい未来のために。とくしま南を、海が見える「あったかい」まちに

平成27年に実施した、地域住民と行政が連携して地域の課題解決について考える「海陽町みらい会議」を前身とし、平成28年に住民たちが、自分たちのみらいをより良いものにするために自主的に立ち上げた団体である。

①にぎわいづくり、②人材育成、③移住者支援をメインの柱として幅広く活動している。①では各種イベントの開催の他に、自然インストラクターの育成やDMVのPR等に関わっており、②ではひとり親世代向けに料理教室の開催や、外国人技能実習生などを対象とした日本語教室を開催し、地域住民の重要な交流の場となり、③ではお試し住宅の「いもちの家」を運営し、移住希望者に町での暮らしを体験してもらう取り組みを行っている。

イベント開催からしごとづくり、町のにぎわいを伝えるための人材育成、移住や多世代交流の支援まで、地域を元気にするための取り組みを精力的に行い、県南地域の活性化に貢献している。

● 令和4年度過疎地域持続的発展優良事例表彰(総務省)「全国過疎地域連盟会長賞」受賞

特定非営利活動法人 あったかいよう

- 住所 / 〒775-0203 徳島県海部郡海陽町奥浦字堤ノ外32
- 理事長 / ラフオンテーヌ 裕子 ● 連絡先 / 0884-70-1413
- メール / support@attakaiyo.org
- HP / https://attakaiyo.org/



(写真上) 世界初のDMVが走る町海陽町として、地域の皆さんと沿線を取り組んだ「穴喰駅フラワーパーク」事業。DMV始発駅となる「阿波海南文化村」でのワークショップやイベントも開催。

(写真下) 移住してきた外国の方を対象にした、簡単な「日本語教室」を企画し、日本文化に触れながら、地域の人と楽しく交流できる機会を提供している。



令和元年度 とくしま集落再生表彰



加羅宇多(からうた) 姫伝説保存会

加羅宇多姫伝説の伝承と西祖谷山村地域の活性化を目指して

三好市西祖谷山村吾橋(あわし)地区に伝わる「加羅宇多姫伝説」を市の内外へ伝える活動が地域の語り部から発展し、平成25年にその伝説を基に地域活性化につなげようと地元住民でつくる保存会が発足。「加羅宇多姫伝説」を題材にした創作劇の公演を保存会が発足して以来、毎年、秋の祭礼日に併せて姫を祭る古宮神社で披露。秘境祖谷には温泉や景色を楽しもうと国内だけでなく海外からも観光客が訪れるため、観光客に地元の伝統文化を知ってもらうべく、自然に囲まれた環境で公演を行っている。「加羅宇多姫」は、鎌倉時代の元弘の乱(1331年)で土佐(高知県)に流罪となった尊良親王の妻であり、伝説では、夫に会うため身重の体で京から旅に出たが、祖谷で死産してしまい、その後自らも命を落としたとされている。

地元で伝わる「加羅宇多姫伝説」の創作劇を通して、国内外に広く発信することで、地域の活性化に貢献している。

加羅宇多姫伝説保存会

- 住所 / 〒778-0104 徳島県三好市西祖谷山村上吾橋
- 代表者 / 檜尾 道子 ● 連絡先 / 0883-84-2159



(写真上) 西祖谷山村の吾橋集落には、ひっそりとたたずむ古いやしろ「古宮神社」がある。この神社には、「加羅宇多姫」と称される女性が祀られており地元では、安産の神社として有名。

(写真下) 高齢化が進み人口が減少し、集落の維持もだんだん難しくなっている中、会員が、集落内の道路の清掃や地域の花植えなど様々な集落の維持活動を行っている。



平成30年度 とくしま集落再生表彰



山人の里(やまんとのさと)運営委員会

「山間地域の暮らし体験」から、 地域ぐるみで地域活性化へつなげる

美馬市美馬町の山間地域に唯一あった重清北小学校が平成22年に児童の減少のため廃校となったことにより、平成23年から愛着のある小学校を活かし地域活性化につなげる方策について検討を始め、簡易宿泊所の運営を地元有志で平成27年から開始。

廃校施設において宿泊だけでなく、山間地域の暮らし体験も実施。地域の人をコーディネーター役を担うことで、体験活動を中心に地域外の人と交流を図りつつ、地域のにぎわいづくり・活性化に向けた活動を行っている。首都圏の大学と連携を行うことにより、大学サークルの合宿誘致や地域おこし研究のステージとしての利用のほか、出身者の帰省時の宿泊場所として利用されており、コロナ禍前までは利用者数が増加傾向にあった。また、農業以外の雇用の場として、宿泊施設の清掃やスタッフとしての雇用促進にもつながり、典型的な農山村集落の暮らしに新たな収入源を提供するなど、経済面からも地域に大きく寄与している。

山人の里運営委員会

- 住所/〒771-2102 徳島県美馬市美馬町字ヶ内26番地3
- 会長/久保田 正和 ●連絡先/0883-63-3260
- メール/ yamantonosato@quolia.ne.jp
- HP/ <http://yamantonosato.com/>



(写真上) 地域の木材を活用した炭焼きや薪づくり等の林業体験や、農業体験、地元野菜を使った本格石窯でのピザづくり等様々な体験メニューを実施。

(写真下) 里帰り運動会を開催し、市外に転出した人が故郷に帰省しやすい環境づくりと交流を行っている。



平成29年度 とくしま集落再生表彰



JA美馬女性部主婦営農班(かあちゃん野菜)

地域住民のやりがい創出と 農村の維持・管理にもつなげる取組

平成25年度から、JA美馬女性部主婦営農班が栽培した農産物を「かあちゃん野菜」として阪急百貨店に出荷販売する取組みを始めた。もともと家庭菜園で自家消費に栽培していた野菜を販売するため、所得向上や栽培意欲の向上につながるとともに、近隣の耕作放棄地を畑として活用する農家も現れ、農村の維持・管理にもつながっている。

また、取組み開始当初はいんげんのみ出荷で、平成25年度の販売額は約150万円ほどであったが、百貨店からの要望もあり、平成28年度には、いんげんをはじめとした約60品目の農産物を出荷。参加者は176人と取組みを開始した当初から年々増加しており、地域間の広域的なつながりが生まれるとともに、地域住民が集まる機会が増え、活動内容の充実、ひいては地域住民のやりがい創出に貢献。年々「かあちゃん野菜」のファンも増えており、知名度の向上だけでなく、販売額も大幅に伸びている。近年では、種なしピーマン「タネなっぴー」の試験栽培を実施。栽培農家も増えており、新たな特産品として期待されている。

JA美馬女性部主婦営農班(かあちゃん野菜)

- 住所/〒779-3601 徳島県美馬市脇町大字脇町字突抜町108番地
- 代表者/尾方 隆子 ●連絡先/0883-53-8534
- メール/ einou@ja-mima.or.jp
- HP/ <http://www.ja-mima.or.jp/women>



(写真上) 地域の農業振興を図るため女性を対象に栽培と加工技術等の研修を受けた、JA美馬の女性部会主婦営農班(東部地区)の皆さん。

(写真下) 「タネなっぴー」のほ場管理講習の様子。「タネなっぴー」は、調理しやすいため、通常の食べ方のほか、器に見立てて茶わん蒸しにしたり、肉詰めにしたりと幅広い用途に使えるのが特徴。



平成29年度 とくしま集落再生表彰



勝瑞獅子保存会

地域に暮らす人たちの協働による 「地域の活性化を最優先」に活動!

勝瑞獅子保存会は、藍住町指定無形民俗文化財「南陽神社の獅子舞」として、300年以上前から継承されている勝瑞獅子舞の伝承活動を行っている。昭和30年代から参加者が減少し、休止期間もあったが、昭和56年に勝瑞獅子舞の復活を熱望した地元有志により再始動。その後は、「地域に暮らす人たちの協働による地域の活性化」を最優先に考え、これまでのように長く地元に住む人だけでなく、女性や転入者といった多様な主体を受け入れるなど、より多くの人が活動に参加できるような運営形態へ転換。

また、祭礼だけでなく、藍住町内外の幅広い年齢層が集まるイベントや老人福祉施設での披露、保育所・幼稚園・小学校等における伝統芸能の継承活動実施により地域コミュニティをつなぐ資源へ発展していった。

その結果、獅子舞を通じて多世代間・住民同士の新たな結びつきが生まれ、地域における清掃活動や防災活動等の地域活性化にもつながっている。



(写真上) 毎年実施している、保育所・幼稚園・小学校等での演舞を通じて、伝統芸能の継承活動をすると共に、地域コミュニティをつなげることに発展。

(写真下) 藍住町内外でのイベント等に参加し、地域の活性化に貢献している。

勝瑞獅子保存会

- 住所 / 〒771-1273 徳島県板野郡藍住町勝瑞字正喜地149番地1
- 会長 / 中林 幸治 ● 連絡先 / 090-5141-3645
- Facebook / <https://www.facebook.com/shozui.shishi/>
- Instagram / <https://www.instagram.com/shozui.shishi/>



平成29年度 とくしま集落再生表彰



久敷(ひさやぶ)あじさいクラブ

あじさいが つなげた、集落の結束が 交流人口拡大や地域活性化に貢献

つるぎ町一宇久敷にある久敷集落は、標高約600mの山間地域にあり、地区人口が22人、世帯数が11世帯で高齢化率が約54.5%と、過疎高齢化が進行している地域であるが、その地域を地元民や集落出身者にとって、帰ってきたい場所にするために、平成11年から集落出身の有志が地域の耕作放棄地を借り受け、あじさいの植栽に取り組んできた。徐々に、活動に賛同した地域住民も会員に加わり、各家庭であじさいの苗を育てて持ち寄り、また自発的にあじさい畑の手入れを行うなど、活動が集落全体に広がりを見せた。

新型コロナウイルス感染症の流行もあり現在「あじさい祭り」の開催は見合わせているが、皆さんに久敷あじさいの里を楽しんで頂くための企画を準備中。そのためにあじさい畑の手入れは毎年欠かさず行っている。

久敷あじさいクラブの活動は、地域の人が集まる機会を増やしただけでなく、地域外の人々が久敷集落へ足を運びきっかけになるなど交流人口拡大・地域活性化に大きく貢献。それだけではなく、活動を通して、地域間の連携は強まり、高齢者の生きがいにもつながるといったコミュニティ形成・維持の一助になっている。

久敷あじさいクラブ

- 住所 / 〒779-4304 徳島県美馬郡つるぎ町一宇字久敷441番地
- 代表者 / 小野寺 美和子 ● 連絡先 / 0883-67-2952
- Instagram / <https://www.instagram.com/hisayabuajisai/?hl=ja>



(写真上) あじさい祭り1週間前、一宇の皆さんが集まってあじさいの周りの草刈りを黙々と作業して、その後はわいわいとお昼ご飯。この準備からお祭りは始まっていて、これがまた楽しくコミュニティ形成のひとつである。

(写真下) あじさい畑の草刈りイベントは6月の第二日曜日に開催。また、各種イベントは、SNS等で発信。



平成28年度 とくしま集落再生表彰



特定非営利活動法人 阿波勝浦井戸端塾

創意ある町おこしイベントや、資源の再発見を図り、町の知名度UPに貢献

人形文化の伝承と町おこしを目的に、30年以上にわたり毎年「ビッグひな祭り」を開催している。全国から家庭で不要になったひな人形をこれまでに30万回回収し、供養して飾り、展示するこの活動は、近年取り上げられているサステナブルな取組みの先駆けであり、3万人もの観光客が町を訪れている。開催期間中は他の地元他団体などとイベントを実施することで、町全体を巻き込み地域活性化に大きく寄与している。

また、平成6年に町内で発見された県内唯一の地域資源「恐竜化石」を用いて、恐竜情報や手作りの恐竜オブジェを飾る「恐竜の里」の整備や、県立博物館等との連携による専門知識を活かした化石発掘体験活動を行うなどの恐竜を活かした町おこしも年々その規模が大きくなっており、勝浦＝恐竜のイメージへの取組みが着実に進んでいる。

30年以上にわたり町の地域資源を活かした魅力の創出に貢献をしているとともに、今後も取組みが次世代へつながるように自主的・主体的な活動を行っている。

●令和4年度過疎地域持続的発展優良事例表彰（総務省）「総務大臣賞」受賞

特定非営利活動法人 阿波勝浦井戸端塾

- 住所／〒771-4303 徳島県勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬35番地1
- 理事長／稲井 稔 ●連絡先／0885-42-4334
- HP／<https://bighinamaturi.jp/>



(写真上)これまで世界30カ国以上にひな人形を寄贈。またリオ五輪や東京五輪でも現地にひな壇を設置し文化交流に貢献している。

(写真下)自然と融合した「恐竜の里づくり」に取り組むとともに、平成30年に発見された日本最古級の「ボーンベッド」の徳島県が行う化石の発掘作業に協力している。



平成27年度 とくしま集落再生表彰



株式会社リレイション

オープンでフラットな変化に満ちた創造性のある社会を目指して

神山町を中心にひとづくりやまちづくりなどを通して、地域活性化に関するプロジェクトを実施している。ひとづくりでは、求職者支援訓練として「神山塾」を平成22年から開催し、全国から集まった塾生が神山町に長期滞在し、地域活性化の手法などを学ぶ。令和4年時点で220名以上が卒業しており、そのうち30%が徳島県へ移住、20%が起業している。また、新社会人として働く若者のサポートとそれを支える企業側へのアプローチを併せ持った研修事業の運営やインターン生も受け入れ、若者と社会をつなぐきっかけの場を提供している。まちづくりでは、廃校を活用した複合施設の運営やサテライトオフィス・古民家オフィスの誘致サポートを実施。

近年は、様々な社会貢献活動や地域活性化事業を実践するスレートメーカー、工務店、菓子製造業、飲食サービス業、福祉事業など地元企業の人材育成研修や新規事業戦略に関わり、多種多様な企業のESG/SDGs経営の支援に取組み、地域企業の活性化と雇用創出に貢献している。

株式会社リレイション

- 住所／〒770-0038 徳島県徳島市南佐古八番町1-5
- 代表取締役／祁答院 弘智 ●連絡先／088-677-5505
- メール／info@relation-style.com
- HP／<https://www.relation-style.com/>



(写真上・神山塾)全国各地、10～60代という世代を超えた多様な人々が集い、これからの自分の生き方、暮らし方、働き方を見つめ直す、学校では学べない大人の本気塾。厚生労働省から認可を受けた職業訓練として運営している。

(写真下・社員研修・インターン)新社会人として働く若者のサポートとそれを支える企業側へのアプローチを併せ持った研修事業を運営。自己理解から始まり、組織のメンバーがよりよく働くために必要なチームビルディング、リーダーシップスキルなどを学ぶ。



平成26年度 とくしま集落再生表彰



うだつマルシェ実行委員会

この町並みの魅力を広く伝えていく！ ボランティアを中心に始まる

平成23年に三好市池田町のうだつが残る町並みで、この町並みに住んでいた元小学校校長らの呼びかけで1日マーケット「うだつマルシェ」が開催されるようになる。地域おこし協力隊の若い世代も運営に加わり、当初の食べ物だけでなく、雑貨など四国中の魅力的な商品を取り揃え、大道芸やライブなどのパフォーマンスが見られるマーケットとして注目されるようになる。毎年夏と冬に開催しており、これまでに計21回開催された。

マルシェ当日には、仮装したメンバーが通りを練り歩く「うだつちんどん」も行われている。これは、かつて祭りの際に町を回っていたちんどん屋を再現しており、マルシェの顔として人々に親しまれている。さらに、マルシェをきっかけに空き家が会場として再利用され、その他の空き家もサテライトオフィスや地域交流拠点として使用されるなど地域活性化に寄与している。

コロナ禍でもこれまでの歩みを振り返る動画を作成し、ホームページ上で公開している。

うだつマルシェ実行委員会

- 開催会場／三好市池田町 本町通り(徳島県三好市池田町マチ)
- 実行委員長／吉田 絵美 ● 連絡先／080-4033-3966
- メール／info@machitosora.com
- Facebook／<https://ja-jp.facebook.com/KirariHonmachi/about>



(写真上) 空き家を「うだつマルシェ」の会場として再利用。飲食にハンドメイド雑貨、骨董品など様々な店が出店し、にぎわいを創出している。

(写真下) 時折、通りで大道芸やライブなどのパフォーマンスが見られ、特にボランティアスタッフによるチンドン屋はうだつの町並みによく映える。



平成25年度 とくしま集落再生表彰



丹生谷(にゅうだに)清流座

阿波人形浄瑠璃の郷土文化伝承と 地域への貢献を目的に活動

山間地域にある那賀町では、過疎・高齢化が進み、産業はもとよりさまざまな伝統文化活動においても後継者不足が深刻な状況であった。そのような中、町内に残る人形浄瑠璃用の農村舞台が全国一多いこと、町内に唯一存在する人形座が高齢化により存続が危ぶまれている現状を知り、地元青年団が中心となり人形浄瑠璃座「丹生谷清流座」を結成した。人形浄瑠璃を通して、伝統芸能の継承のみならず、農村舞台をはじめとする地域が守ってきた歴史的な文化資源に新たな価値を見出し、地元住民と連携し活用することで、地域の魅力を高め、交流人口の増加に寄与している。人形浄瑠璃公演を農村舞台で行う最大の効果は、公演の開催に際し、地域住民が行政や県内外の人形座、芸術家などと連携・協力し、これまで使われていなかった農村舞台を復活させる過程において、地域コミュニティの再生につながっていることが挙げられる。

現在では、県や町などの行政機関とも連携し、農村舞台の新たな可能性を求め、人形浄瑠璃のみならず、音楽イベントや社中のレストランとしての活用など、新たな可能性を追求している。

- 令和元年度ふるさとイベント大賞(一財)地域活性化センター)「ふるさとキラリ賞」受賞

丹生谷清流座

- 住所／〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字王子原31-1
- 座長／西本 直生 ● 連絡先／0884-64-0026 (那賀町社会福祉協議会 榎森)
- メール／seiryuza@gmail.com
- Facebook／<https://ja-jp.facebook.com/seiryuza/>



(写真上) 町内の小中学校において、人形浄瑠璃や農村舞台について体験を通して学ぶ機会を創出している。また高校の人形浄瑠璃部練習にも参加し、後継者育成にも努めている。

(写真下) 農村舞台を活用した野外音楽ライブ「ヒューマノイズプロジェクト」を毎年開催し、徳島県出身の音楽家住友紀人さんを中心に県内外から多くのアーティストが出演している。

平成30年度 とくしま集落再生表彰

きさわ杉の娘(こ)楽校

自発的に行動した時の行動力や
団結力のすごさは時に年齢をも超える

平成26年に那賀町木沢地域唯一の小学校が閉校したことや、35年間にわたり地域の保健活動をサポートしてきた「愛育班」の解散、地域おこし協力隊の着任をきっかけに、高齢者自らが「娘」となって、廃校となった木沢小学校を活用した集いの場を創出(杉の娘楽校開校)。

毎月1回程度、料理・裁縫教室や歌、芝居の活動を実施。平成27年からは、毎年春に「杉の娘祭」と称した文化祭を開催し、唄・お手玉・寸劇芝居・ちんどんといった多様な出し物で、地域住民はもちろん、噂を聞きつけてやってきた聴衆を魅了。底抜けに明るい校風が話題となり、自主的にデイサービスセンターや老人ホーム等への出張慰問公演も行った。

近年は地域行事への出演・産直市出店などで地域のにぎわいづくりに一役買ったり、また、転校生受入れ(多世代交流)として、県内外の学生(徳島大学・芝浦工業大学ほか)来訪時には郷土料理や民泊体験を提供。木沢地域の孫(ファン)づくり・交流人口拡大に貢献したが、令和3年に惜しまれながら卒業、解散。



▲ 地元の方がここに暮らしていて良かったと思えるような地域づくりを目指して活動していたが、令和3年に卒業、解散したきさわ杉の娘楽校の生徒たち。



平成26年度 とくしま集落再生表彰

故 高開文雄氏

天空の石積み、『高開の芝桜』。
文化的・歴史的な風景がここにはある

吉野川市美郷地区において、ただ1人の石工として地区にある約300年前から守り続けてきた石積み修復作業を行い、体験教室を開いて石積み技術を延べ2000人以上に伝承した。

また、中心となって行ったシバザクラの植栽・管理は、雨水により石積みの表土流失を防ぐためであり、それは下流にある国の天然記念物に指定されているホテルの生息地「川田川」の環境保全にもつながっている。

故人となった現在では、同地区で活動する「特定非営利活動法人美郷宝さがし探検隊」が活動を引き継ぎ、高開氏から学んだ大学生が高開石積みの修復だけでなく、全国で石積みの伝承に取り組むなど、高開氏の想いは着実に後世に伝わっている。



▲ 石を積んで暮らしてきた長年の生活の知恵が積み重なっている。



▲ 生前「立ち止まって見てくれるとうれしい」と語っていた高開文雄氏



平成25年度 とくしま集落再生表彰

もんでこい丹生谷運営委員会

町出身者へ、ふるさと回帰(Uターン)を
呼びかける住民活動

平成20年に「もんでこい(戻ってきての阿波弁)」を合言葉に、町出身者へふるさと回帰を働きかけ、町民にはふるさとの良さを再確認してもらい、那賀町を活性化することを目的として発足。

地元住民が東京や大阪を訪れ、ふるさとの声(ビデオレター)やふるさとの味(郷土料理)を届けるために「那賀町祭」を開催。また、地元住民が主体となり、自分達の声でふるさとの窮状や想い、未来へ希望を伝える「もんでこいミュージカル」を公演したり、Facebookやふるさと会の設立など町外在住者と那賀町をつなぐ活動を実施。

「もんでこい」の活動により町内の子どもから高齢者といった住民がふるさとに愛着を持ち、住民意識が高まるなど地域活性化に寄与したが、令和2年に惜しまれながら解散。

●平成26年度過疎地域持続的発展優良事列表彰(総務省)「全国過疎地域自立促進連盟会長賞」受賞



▲ 「何も無い町」っていうけど、実はたくさんの宝物があるんだよ。そんな思いをミュージカルにのせて、観客に届けた。



▲ ばあちゃんたちが「もんでこい」と叫ぶ。もんでくるだけの魅力が、那賀町にはいっぱいあるよーって。



とくしま集落再生表彰
応募の条件

(1) 表彰の対象

現在、徳島県内で活動しており、今後も活動を継続することが見込まれる個人又は団体(過去に同一の功績により、大臣表彰又は県知事表彰を受賞していないこと)。

(2) 募集時期について

毎年10月頃を予定(毎年3月頃に表彰式を実施)

(3) その他

詳細等は、とくしまぐらし応援課地域再生担当までお問い合わせください。

アクティブシニア集落
認定の基準

(1) 条件不利地域[※]内に所在すること

※「条件不利地域」とは、過疎地域自立促進特別措置法に基づき公示された「過疎地域」などを指す。

(2) 集落に居住するアクティブシニア(意欲ある元気な高齢者)が、地域コミュニティの運営や地域資源を活かした特産品づくり等の地域おこし、集落に伝わる文化・歴史の継承活動など多様な活動へ積極的・主体的に参画し、当該地域の活性化に貢献していること。

(3) 前号の取組内容が、モデル事例として他の地域への横展開が期待できること。

●その他詳細等は、とくしまぐらし応援課地域再生担当までお問い合わせください。



徳島県ホームページ
とくしま集落再生表彰

政策創造部 地方創生局とくしまぐらし応援課 地域再生担当
〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
TEL:088-621-2745 FAX:088-621-2829
✉ tokushimagurashioenka@pref.tokushima.jp



徳島県ホームページ
アクティブシニア集落

【美馬市】野村集落

◆のむらしゅうらく



地域住民が主体となり、よろず相談窓口を設置し、地域の課題に取り組むことが住民一人ひとりの暮らしや地域を守る活動となる

美馬市脇町にある野村谷川沿いにある野村地区では、平均年齢約75歳の住民団体「野村よろず会」が地域の活力維持や困りごと解決に奮闘している。

地域内の独居高齢者・高齢者世帯への定期的な訪問や、困りごと相談により依頼された案件（ごみ出し支援、庭木の伐採や草取り、片付け清掃など）を地域住民で支援するボランティアが主な活動となっている。また、民生委員や自治会長等が中心となり、当事者では対応が難しい行政サービスへの仲介（緊急通報装置設置、地域包括支援センターとの連携など）のほか、公園の草刈り等の生活環境の整備作業も定期的に行う。

「地域で仲良く暮らすために、何か地域のためにできることはないか、気安く話しかける場所はないか」との想いから、平成30年に野村小地域生活支援ネットワーク活動ボランティアグループとして有志数人で「よろず会」を発足。令和2年からは、有志以外に地域内で活動している婦人会等の役員も参画する形式に発展させ、「野村よろず会」に名称を変更。各団体メンバーを総動員した地域ぐるみの活動が可能となっている。

また、よろず会事務局にポストを設置し、随時困りごとの相談を募る仕組みも設けて、「地域でできることは地域でする」をモットーに、若い世代との交流も行いながら、住民が住みやすい地域を自分たちでつくりたいと尽力されている。

社会福祉法人 美馬市社会福祉協議会

- 住所 / 〒779-3610 徳島県美馬市脇町大字脇町1265番地1
- 連絡先 / 0883-53-7432 ●FAX / 0883-53-6475
- HP / <http://shakyo.ict-tokushima.jp/mima/>



(写真上) 電球の交換・倉庫の片づけ・蜂の巣撤去・生垣の剪定・個人宅の軒整備・粗大ごみの搬出・古本処理・引っ越しの手伝い等多岐にわたり、地域の空き家の木の剪定・公園の草刈り・清掃の活動も行っている。

(写真下) 「野村よろず会」の方々。何でも頼める顔なじみの関係を築くことを重視しながら、訪問活動や困り事支援等に努める。

【那賀町】木頭集落

◆きのづかしゅうらく



伝統文化の継承と競技性を兼ね備えたイベント「木頭杉一本乗り大会」。地元の名人たちを中心に、地域ににぎわいが生まれている

那賀川流域の最上流部、山間部に位置する木頭地区では、竹竿を手に一本の丸太に乗って清流を下る「木頭杉丸太一本乗り」が夏の風物詩となっている。

木頭地区は古くから杉の産地であり、木材の搬出、輸送手段として那賀川において用いられた技術として「丸太一本乗り」があった。川幅が狭く急流の木頭では、筏を組まずバラ流しと呼ばれる方法で行われたことから、この技術が生まれたとされる。ダムが建設され、道路事情が良くなってトラック輸送に変わる昭和30年代後半ごろまで行われていた。

技術の伝承と地域おこしのため、イベントとして復活させてみてはどうかという機運が高まったのは昭和60年頃で、かつて一本乗りを職業としていた有志が「木頭杉一本乗り保存会」を結成し、復活に向けて動き出した。翌年の昭和61年には「第1回木頭杉一本乗り大会」を開催し、往年の一本乗りの勇姿が復活した。「木頭杉一本乗り大会」は夏の恒例イベントとして定着し、県内外からの多数の来場者によって地域ににぎわいをもたらすとともに、交流人口・関係人口の創出に寄与している。

大会の2ヶ月前から毎週講習会も開催し、シニアの保存会員、名人による手ほどきも受けられ、町外、県外から通ってくる参加者もあり、すっかり顔なじみになっている人も多数いる。保存会の会員はかつて「ひょうさん」と呼ばれる一本乗りによるバラ流しを職業としていた人を含む老若男女様々であるが高齢会員も多く、80歳を越えてなお活動を続けている人もいる。

木頭杉一本乗り大会事務局

- 事務局 / 〒771-6402 徳島県那賀郡那賀町木頭出原字マエダ34番地 那賀町役場木頭支所内
- 連絡先 / 0884-68-2311 ●FAX / 0884-68-2125
- HP / <https://ipponnori.info/index.html>



(写真上) 少しでも長く丸太に乗ってしようと、地元の名人たちが秘技を伝授する『木頭杉一本乗り講習会』で名人の手ほどきを受けて大会に参加する人も多数。

(写真下) 木頭杉一本乗り保存会の福井功会長は「気軽に始めたが、県内外から参加者が集まるイベントになってうれしい。これからも伝統を引き継いでいきたい。」と想いを語った。

【つるぎ町】 家賀集落

◆ けかしゅうらく



にし阿波の傾斜地農法から生まれた、「食べる藍」の魅力で
歴史ある集落を再生し、未来に残す

剣山系北斜面側の一角、国内最大規模の急傾斜地である旧貞光町の地域にある家賀集落では、昭和初期まで家賀地区で栽培されていた「藍」栽培を、シニアが活躍する住民団体が地域活性化・雇用創出のために復活させた。

かつては藍栽培・養蚕・葉たばこ栽培で栄えた集落であったが、年々過疎化が進み、耕作放棄地や荒れた山林が増え、美しかった山村景観が失われていく状況にあった。

平成30年、急斜面で農作物を育てる伝統農法が「にし阿波の傾斜地農耕システム」として国連食糧農業機関から世界農業遺産として認定を受けたことがきっかけとなり、「集落を未来に残したい」という想いから、藍染め職人やツアーガイドら60歳代から70歳代の有志が集まり、「家賀再生プロジェクト」が結成された。

1000平方メートルに及ぶ耕作放棄地を手入れしながら、世界農業遺産にも認定された「にし阿波傾斜地農法」を用い、再び藍の収穫を実現。栽培した「藍」から生まれた食用の「藍の粉」は、徳島剣山世界農業遺産推進協議会が認定する世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド認証品として認証を受けるとともに、地域の和菓子店、素麺業者や米穀店と連携し「食べる藍」として流通している。他方で、家賀地域を2時間で回る観光ツアーにも取り組んでおり、人的交流・関係人口の創出にも努めている。



(写真上)家賀のエリアは、東から登る太陽光がちょうど傾斜している畑に、まんべんなく当たり、また水の滞留もなく、大自然の恵みを利用した循環が成立している。

(写真下)かつて藍の栽培が盛んだった「つるぎ町家賀地区」で、「食べられる藍」を作りたいと藍の栽培をスタートした家賀再生プロジェクト代表の枋谷京子さん。藍(たであい)の畑には刈り取った茅や、落ち葉が敷き詰められ、化学肥料も農薬も使用しない。体に良い藍を安全・安心に届けたいと生産、販売を手掛けている。

家賀再生プロジェクト

- 住所 / 〒779-4107 徳島県美馬郡つるぎ町貞光家賀道上474
- 代表・発起人 / 枋谷 京子 ●連絡先 / 090-5144-4896
- HP / https://peraichi.com/landing_pages/view/keka-playback-project



【美波町】 木岐奥集落

◆ せせおくしゅうらく



多世代交流に主眼を置いた活動によって若者とシニアが融和した
地域づくりを促し、地域の活性化に寄与している

旧由岐町の沿岸部に位置する木岐奥集落では、手作りかかしの出来栄を競う恒例の「かかしコンテスト」や小正月に行われる火祭り「左義長」などの恒例イベントが活発に行われている。

これらは、集落内の住民団体「木岐奥次世代会議」が手がけるイベントで、高齢化が進む地域において、若年層とシニアが融和しながら、生き生きと暮らし続けることができる地域づくりを目指している。

毎年10月頃に開催される「かかしコンテスト」では、地域内外から手作りのかかしを募集。タレントやアニメのキャラクターを模したユニークなかかしが、多い年には60体ほど展示・審査されるとともに、当日は子供達によるミニチュアかかしづくり体験も行われる。

かかしを通じて県内外の団体との交流も生まれ、地域ににぎわいをもたらすとともに、住民が地域に愛着を持つことに寄与しており、子供からお年寄りがイベントを通じて触れあい、幅広い世代間の交流の機会となっている。

「木岐奥次世代会議」は多世代間交流に主眼を置いたまちづくり活動を目的として、木岐奥地域に強く愛着のある23世帯47名、6歳から83歳までの幅広い年齢層の住民で平成9年に結成。以降、シニア世代が活動の中核を担いつつ、地道な活動を続けている。木岐川周辺の清掃活動などの環境保全や防災学習にも努め、暮らしやすく安全なまちづくりにも寄与している。



(写真上)「かかしコンテスト」とは、サルやいのししなどの有害鳥獣対策として、町内外から「かかし」を募集したのが始まり。現在は、たくさんの皆さんと優秀作品を審査するイベントとなり、地域のコミュニティの活性化に一役かっている。

(写真下)木岐の左義長は、1月中旬の休日に短冊で装飾した高い孟宗竹の周りに注連縄などを持ち寄り、早朝6時に焼いて無病息災や地域の安寧な生活を祈願する。

木岐奥次世代会議(地域づくり団体)

- 事務局 / 〒779-2108 徳島県海部郡美波町木岐559
- 代表 / 寺下 ●連絡先 / 0884-78-1567
- メール / kiki-jisedai2005@mc.pikara.ne.jp
- Facebook / <https://www.facebook.com/kikioku.jisedai/>



【海陽町】久尾集落

◆くおしゅうらく



古くから伝わる「寒茶」を地域ぐるみで特産品に。
優しい甘みの「幻のお茶」は、人と人をつなぐ大きな役割を果たしている

久尾集落は旧穴喰町野根川源流域の山間部に位置する集落であり、住民が生産組合を立ち上げ地域内の茶畑で栽培している寒茶が特産物となっている。

昭和49年に集落内の女性14名で生活改善グループが発足されて以来、山村の地の利を活かし、各家庭で加工している山菜の加工研究が盛んに行われてきた。昭和63年には、穴喰地域では古くから飲み継がれている寒茶を特産品とする動きが本格化し、農家約20戸により穴喰寒茶生産組合が結成され、「JAかいふ」等で商品化しながら寒茶の栽培・加工・販売を行っている。現在は道の駅「穴喰温泉」などで販売しており、毎年の新茶を楽しみにしている人も多い人気商品となっている。

「寒茶」は、その名の通り、最も寒い時期に収穫する。カフェインやタンニンが少なく甘みが強いことが特徴で、胃に優しく、無農薬・無肥料の自然栽培でつくられることから、子供からお年寄りまで安心して飲むことができる。海陽町旧穴喰町においても生産農家が少なく「幻のお茶」とされる一方で、集落においては、農作業の合間にごくごく飲む「くらしのお茶」として親しまれる。

茶葉の収穫の時期には、日本茶愛好家や研究者が見学に訪れるほか、近隣の小学校から茶摘み体験などで児童が訪れるなど、集落がにぎわう。古くから伝わる製法を守り続けるだけでなく、地域内の非農家や他集落と協力しながら加工や販売等の活動を積極的に行っており、他の集落を巻き込んだ生活向上・地域活性化に努めている。



(写真上)茶畑は山にある。女性たちは真冬の寒のときに白い息を吐きながら急峻な斜面を登り、茶葉を一枚ずつ手摘みする。集めた茶葉を昔ながらの方法で半時ばかり蒸しあげて、手作りして仕上げる。

(写真下)寒茶は茶葉の微細な加工具合で風味が大きく変わる。地域内外から愛される寒茶の味わいは、集落内の寒茶農家の方の長年の研究によるもの。

海陽町役場 総務課
●住所/〒775-0295 徳島県海部郡海陽町大里字上中須128
●連絡先/0884-73-4151 ●FAX/0884-73-3097
●HP/ <https://www.town.kaioyo.lg.jp/>



【勝浦町】生名集落

◆いくなしゅうらく



活動を通して人と人をつなぎ、地域と地域のコミュニケーションを深め
ふるさと生名(いくな)を元気にするために活動中

勝浦川へ流れ込む生名谷川沿いに、満開の桜が約2kmに渡り並ぶ。

この県内随一の桜の名所「生名ロマン街道」は、約30年前の生名川改修工事の記念として、勝浦町生名地区の老人会等の方々により「子々孫々のために」との想いで植えられた約250本もの桜の苗木が、歳月をかけて成長して出来上がった。

地域活性化のために結成された住民団体「生名ロマンの会」の手により、地区に古くからある大銀杏や桜に「ぼんぼり(提灯)」やLEDによる飾り付けが行われ、この交流空間で春に開催される「勝浦さくら祭り」は今年で20回目を迎える。毎年、生名谷川沿いに地元住民らが多数集い、ムード満点の夜桜を目当てに遅くまでにぎわっている。

同会は、平成29年に台湾クルーズ船「マジェスティック・プリンセス」が小松島港に寄港した際、町が設置した協議会の一員としてツアーバスの乗客約2,000人の受け入れに尽力し、日本の桜・花見文化の架け橋となった。これを契機として訪日観光客誘致に力を入れており、令和元年には香港旅行社の周年記念祝賀会に招待を受けるなど、国外においても高い評価を受けている。

人が集い交流する「ロマン街道」を出会いの場として、勝浦町で開催されるイベント「よってネ市」や「ビッグひな祭り」とも連携しながら、訪れた人々と地域住民の交流を促し、地域コミュニティを大切にしながら、桜並木や大銀杏の維持活動に努め、生名地区の魅力を町内外に発信している。

生名ロマンの会
●代表/戸川 幹雄 ●連絡先/090-8970-6728
●HP/ <http://awa-sakura.jp/>
●Facebook/ <https://www.facebook.com/ikunaroman/>



(写真上)生名ロマン街道)およそ2kmの並木道にはソメイヨシノやシダレザクラなどが植わっており、県内では珍しい桜街道が楽しめる。また、「阿波勝浦さくらまつり」開催期間中は、並木道の間を流れる谷川で舟下りをしており、船に乗って下から眺める桜は圧巻。

(写真下)生名ロマンの会の方々)植栽された桜の苗木の育成管理に努めながら、生成区民同士の絆づくりを推進すべく立ち上がった地元有志らにより平成15年に結成。

【つるぎ町】久藪集落

ひさぎおしゅうらく



天空の集落では、地域住民の手で
持続可能な地域づくりが実践されている

旧一宇村の標高約600mの剣山系の山間部にある集落「久藪」。
あじさいの見頃の季節には集落の斜面いっばいに咲き乱れる、天空の「あじさいの里」となっている。1.2ヘクタールもの広大な耕作放棄地に6000株のあじさいを地域住民や集落出身者が協力して植栽し、長年の手入れにより生まれた絶景が広がる。

久藪集落においては、住民団体「久藪あじさいクラブ」が主体となって、あじさいの植栽や手入れや野生鳥獣の被害からあじさいを守るフェンスの補強を行いながら、住民手作りのあじさいを使った催しを開催している。また、集落内にある民宿「家曾敷」にて観光客に山間部の集落ならではの宿泊体験を提供するなど、過疎高齢化が進行する中で、地域内外から人を呼び込む取組みが盛んな集落となっている。様々な共同作業を通じて、シニアが生き生きと暮らしながら、住民の子世代のUターンや移住者に対して地域全体で温かく迎える地域コミュニティが形成されている。

令和4年度には、四国運輸局が手がける「徳島県にし阿波地域における地域住民を基盤としたサステナブルな観光コンテンツ・ツアー造成事業」において、久藪集落へのモニターツアーを受け入れるなど、にし阿波地域における観光資源の保護・保全と、観光振興における持続可能な利活用の推進について寄与している。「徳島の山間部に暮らす人々との交流」をコンセプトに集落に現存する阿弥陀堂で、伝統風習である数珠回しを体験したり、地元の祭りに参加して住民と交流する機会を提供するなど、集落の人々を中心となって、持続的な観光地域づくりにも取り組んでいる。



(写真上)久藪阿弥陀堂を中心に催しが開催され、多くの人が訪れる。カラオケ大会や阿波踊り、三番叟、餅まきなど様々なイベントが開催される。

(写真下)令和4年10月に実施したモニターツアーでの数珠回し体験の様。専門家から得た意見を踏まえ、観光コンテンツの磨き上げを図る。

久藪あじさいクラブ

- 住所/〒779-4304 徳島県美馬郡つるぎ町一宇字久藪441番地
- 代表者/小野寺 美和子 ●連絡先/0883-67-2952
- Facebook/<https://www.facebook.com/profile.php?id=100069126332855>



【東みよし町】ハタ・法市集落

ほいちしゅうらく



地元有志の手で「農村舞台」を復活。
住民一丸となり「限界集落の再生」に取り組む

旧三好地区の山間地域にあるハタ・法市集落では、標高約400mの位置にある「法市農村舞台」において、年に一度、人形浄瑠璃を中心とした農村舞台公演が開催される。県内外から約300人の来場者が訪れ、人形浄瑠璃や阿波木偶箱まわしなどの伝統文化・芸能を堪能し、大いににぎわいを見せる。

普段は集落内の船戸神社の拝殿として利用している「法市農村舞台」は、拝殿として創建されたのちに改修され、1920年頃まで人形浄瑠璃が上演されていた。戦後は主に集会等に使用されていたところ、平成15年にあった東京理科大学非常勤講師による調査発掘により、全国的に珍しい仮設舟底舞台(床の取り外しにより人形繰り手が舞台の表面から低い位置に立てる構造)となることが分かり、地元住民らによる再活用が始まった。その後、地元有志により「法市農村舞台保存会」を発足。平成15年に80年ぶりの人形浄瑠璃公演が行われて以来、毎年10月の第一日曜日に人形浄瑠璃を中心とした公演を開催している。平成19年には老朽損壊が進んでいた舞台建屋を原型復旧を基本に多くの方々の支援・募金により108年ぶりの大改修工事が実施された。

また、地域住民が発起人となって、法市集落で200年前から育てられていると言われるサツマイモを干し芋として製造・販売をする合同会社を設立するなど、高齢化によりコミュニティ機能が失われつつある中、集落に伝わる文化・歴史の継承活動や、6次産業をはじめとする農業を通じた「限界集落の再生」に住民自らが取り組んでいる。

法市農村舞台保存会

- 住所/〒771-2503 徳島県三好郡東みよし町東山字法市
- 会長/細川 ●連絡先/0883-79-2838
- HP/<https://www.awanavi.jp/spot/20405.html>



(写真上)取り外し可能な床板の下の地面は下駄を履いた人形遣いが自由に動き回れる船底仕様の三和土(たたき)になっている。毎年10月には「阿波人形浄瑠璃」や「三番叟まわし」などが演じられる。

(写真下)「合同会社法市の干し芋」は、「自然のまんま・そのまんま!」をモットーに、法市で作られた安心安全な美味しい食材を提供していくため、平成28年に設立。平成29年には徳島県が認定しているGAP「とくしま安2農産物(安2GAP)」の認証を受けた。